

第 10 回 西日本インカレ（合同研究会）専用企画シート

必ず「企画シート作成上の注意」をご確認いただき、ご記入をお願いいたします。

大学名（フリガナ）	学部名（フリガナ）	所属ゼミナール名（フリガナ）
オオサカショウギョウダイガク	ケイザイガクブ	ハヤシゼミ
大阪商業大学	経済学部	林ゼミ

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数（代表者含む）
ピリオド	ナカハタコウキ	3 名
ピリオド	中畑皓貴	

研究テーマ（発表タイトル）

公営競技の再興

1. 研究概要（目的・狙いなど）

公営競技は、顧客高齢化や、趣味の多様化による新規顧客開拓の難航によって、最盛期と比べると衰退してしまっている。今まで公営競技が地方自治体にどれほど貢献してきたかを調べ、公営競技が衰退することは日本にどのような影響を与えるのか、そして公営競技が再興すべきであることとそのための施策について言及する。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

近年、公営競技のうち競馬、オートレースは徐々に売上を上げているが、競輪はほぼ横ばいである。しかし売上が上昇している要因は、ネット投票が可能になったためであり、公営競技場自体の売り上げは減少している。将来的に見据えると顧客が高齢化していることや、趣味の多様化による影響で衰退することが予想できる。公営競技の実施が地方自治体によることとなったのは、まだ日本が連合軍に占領されていた当時の GHQ の指導によるところが大きい。競輪、オートレース、オートレースは、GHQ の指導により、中央政府が主催すべきではなく地方自治体に主催権を与える、全国組織は認めないというものであった。このような中で、公営競技は全国各地に展開し、庶民の娯楽として発展していった。

これらの公営競技は、刑法第二編第二十三章で、賭博及び富くじに関する罪の違法性を阻却しているものである。公営競技の売上金の一部は、地方公共団体金融機構や、日本財団等の各種助成金・交付金等により公益事業の推進及び各自治体への一般会計への繰り出しにより地方自治の改善という競走法の法目的に沿って、様々な形で社会に還元され続けている。したがって、公営競技は地方活性化をするうえで重要であると考え、研究を行う。

3. 研究テーマの課題

公営競技には、現在も根強いファンが存在しているが、最盛期から比べると売り上げは減少しており、新規顧客の獲得が課題として挙げられる。また、インターネット投票の売上は上昇しているものの、場内売上が減少しているのも課題である。新規顧客の開拓に有効な手法の調査として、現在大学生は公営競技にどのようなイメージを持ち、訪れたことがない人はどういった要因で訪れていないのかを調査する。また、そこから得た結果をもとに、公営競技の施行者が若者を来場させるためには、どういった施策を行うべきかを考える。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

私たちが調査したアンケートでは、大学生でギャンブルをしたことがない人は約 40%であった。そして、①ギャンブルをしない理由として、「負けるのが嫌」が約 52%、「行くきっかけがなかった」が約 24%であった。その内、②きっかけとして「お金に余裕があれば来る」が約 52%で、「一緒に行ってくれる友達がいたら行く」が約 33%であった。また、③公営ギャンブルに持つイメージとして「すればするほど負けるだけ」というギャンブルのリスクである負のイメージを持っている回答が約 61%であった。①②③より、大学生は、リスクが発生するという賭博性の理由で公営競技に参加することに踏み出せておらず、その一方で、金銭的に余裕ができたり、一緒に行く友達や、行くきっかけができたりすれば、行ってみたいという結果が得られた。このことから、金銭的なリスクなしに、公営競技に類似したショーなどのイベントを行う施設を設立することで、若者が公営競技に参入しやすくなるのではないかという結論に至った。

新たなビジネスモデルの施設として、「日本公営競技統合型リゾート」を提案する。主な内容として、4 種公営競技(競馬、オートレース、オートレース、競輪)が施設内にすべて存在する。普段通りの公営競技のギャンブルが楽しむことができる、かつ、金銭面のリスクなしに競技性を楽しむことができるイベントも行う施設とする。宿泊施設等も周辺に設置し、施設内で乗馬体験、ボートの試乗等ができるようにし、ギャンブル目当てで来ていない人にもギャンブルが目に触れるような施設作りをすることが重要だと考える。この施設に遊びに来た後、それぞれの公営競技に興味を抱き、顧客が地元に戻った際、地元近くの現存している公営競技に、訪れてもらうのが私たちの最終目標である。そうすることで、地方自治体が運営している日本各地の公営競技が再興し、教育や公共事業に利用される金額が増え、多くの人々の生活向上につながる。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

・滋賀県大津市 大津市役所へのインタビュー

(2019 年 8 月 6 日)

調査目的：地方自治体と公営競技（びわこオートレース場）を活用してどのような取り組みを行っているのか知るため

・滋賀県大津市 びわこ競艇場へのインタビュー

(2019 年 8 月 7 日)

調査目的：びわこ競艇場が来場客数を増やすためにどのような取り組みを行ってきたのか、その効果を知るため

・大阪商業大学、明治大学合同合宿によるアンケート調査

(2019 年 9 月 17～2019 年 9 月 19 日)

調査目的：大学生がギャンブルに対してどのような印象を用いているのか知るため

・一般財団法人 BOATRACE 振興会 総務部 総務課 角田 英実香様にメールによる質問

(2019 年 10 月 9 日～2019 年 10 月 16 日)

調査目的：オートレース振興会に従事する人がオートレースを残す意義や魅力について知るため

・一般財団法人 BOATRACE 振興会 総務部 総務課 小泉 勇人様にメールによる質問

(2019 年 11 月 7 日～2019 年 11 月 8 日)

調査目的：私たちの提案する公営競技を利用した施設の建設が可能か、また集客効果が見込めるか知るため

6. 結果や今後の取り組み

アンケート結果から大学生は、リスクが発生するという賭博性の理由で公営競技に参加することを拒んでおり、一方で、金銭的に余裕ができたり、一緒に行く友達や、行くきっかけができたりすれば、行ってみたいということが分かった。このことから、金銭的なリスクなしに、公営競技に類似したショーなどのイベントを行う施設を設立することで、若者が公営競技に参入しやすくなるのではないかという結論に至った。そこで私たちは前述したように「日本公営競技統合型リゾート」を提案しようと考えた。一般財団法人 BOATRACE 振興会総務部総務課の小泉勇人様にメールによる質問を行ったところ、集客効果は「ショーや乗馬体験」といった公営競技以外の集客エンジンの規模や立地といった問題をクリアすることで見込めるかもしれないという回答をいただいた。一方で、

「日本公営競技統合型リゾート」のレース場を新設することに関しては、地域社会との調整などを考慮し、慎重に検討が必要であること、4 種を複合するとなると用地の問題も考えられ、実現性は限りなく低いと考えられるという回答をいただいた。

今後の取り組みとしては、これらの問題をどのようにクリアし、4 種を複合した施設を新設する用地の確保とその立地条件について検討していく必要がある。

7. 参考文献

- ・「カジノと IR。日本の未来を決めるのはどちらだ!？」高城剛 2016 年 12 月 2 日 集英社 出版
- ・「六法全書 平成 31 年度版」宇賀克也、中里実、佐伯仁志 2019 年 3 月 15 日 有斐閣 出版
- ・「公営競技テキストブック」公営競技ファンサイト Beginner Girls（最終閲覧日 2019 年 10 月 3 日）
<https://gamboo.jp/beginnergirls/comparison/>
- ・「明治天皇と競馬—近代日本における馬概念の美容—」高橋一友（最終閲覧日 2019 年 10 月 3 日）
https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/230657/1/soc.sys_21_141.pdf
- ・公共的活動応援サイト長野県未来ベース（最終閲覧日 2019 年 10 月 10 日）
<https://www.mirai-kikin.or.jp/support/>
- ・日本財団（最終閲覧日 2019 年 10 月 10 日）
<https://www.nippon-foundation.or.jp/>
- ・JRA 日本中央競馬会（最終閲覧日 2019 年 10 月 17 日）
<http://www.jra.go.jp/>
- ・KEIRIN.JP（最終閲覧日 2019 年 10 月 17 日）
<http://keirin.jp/pc/top>
- ・「公営賭博：衰退の兆し？」IR ゲーミング学会（最終閲覧日 2019 年 10 月 24 日）
<http://www.jirg.org/archives/768/>
- ・Auto Race Official Site（最終閲覧日 2019 年 10 月 24 日）
<http://autorace.jp/>
- ・「公営競技の CM 事例」名古屋の映像制作 TAO（最終閲覧日 2019 年 10 月 24 日）
<https://tao-iw.com/blog/2018/08/3356/>
- ・「ラスベガス、マカオ、シンガポール。カジノ主要都市は、それぞれ収益モデルが違う」古嶋雅史
（最終閲覧日 2019 年 10 月 30 日）
<https://diamond.jp/articles/amp/65314?page=4&skin=amp&device=smartphone&display=b>
- ・「公営競技場の都道府県別一覧」地域経済ラボトリー（最終閲覧日 2019 年 10 月 31 日）
https://region-labo.com/archives/list/list-7088/?doing_wp_cron=1571060375.1201310157775878906250
- ・一般社団法人 全国モーターボート競走施工者協議会（最終閲覧日 2019 年 11 月 7 日）
<https://www.motorboatrace-association.jp/info/index.html>
- ・「公営競技の誕生と発展：競輪事業を中心に」北海学園学術情報リポジトリ（最終閲覧日 2019 年 11 月 8 日）
http://hokuga.hgu.jp/dspace/bitstream/123456789/3119/1/%E5%AD%A6%E5%9C%92%E8%AB%96%E9%9B%86168%E5%8F%B7_04_%E5%8F%A4%E6%9E%97%E8%AB%96%E6%96%87.pdf
- ・「日本の公営競技と地方自治体」石川義憲（財）JKA 理事（最終閲覧日 2019 年 11 月 8 日）
<http://www.clair.or.jp/j/forum/honyaku/hikaku/pdf/BunyabetsuNo16jp.pdf>
- ・BOATRACE 振興会 HP（最終閲覧日 2019 年 11 月 8 日）
<http://www.boatrace-pr.jp/sp/site/>
- ・「公営競技の形成と展望—競艇中心に—」福井弘教（最終閲覧日 2019 年 11 月 8 日）

[http://ppsg.ws.hosei.ac.jp/wp/wp-](http://ppsg.ws.hosei.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2016/04/fdad27fbda1ac794189d9b69d54c0517.pdf)

[content/uploads/2016/04/fdad27fbda1ac794189d9b69d54c0517.pdf](http://ppsg.ws.hosei.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2016/04/fdad27fbda1ac794189d9b69d54c0517.pdf)

・「公営競技場の有効利用に関する考察」山本将利（最終閲覧日 2019 年 11 月 8 日）

<https://www.toyo.ac.jp/uploaded/attachment/117514.pdf>

・「事業の現状、今後の展開等について」花月園観光株式会社（最終閲覧日 2019 年 11 月 9 日）

[http://www.kagetsuenkanko.co.jp/wp-](http://www.kagetsuenkanko.co.jp/wp-content/uploads/2019/03/2019.03.15-%E4%BA%8B%E6%A5%AD%E3%81%AE%E7%8F%BE%E7%8A%B6%E3%80%81%E4%BB%8A%E5%BE%8C%E3%81%AE%E5%B1%95%E9%96%8B%E7%A)

[content/uploads/2019/03/2019.03.15-%E4%BA%8B%E6%A5%AD%E3%81%AE%E7%8F%BE%E7%8A%B6%E3%80%81%E4%BB%8A%E5%BE%8C%E3%81%AE%E5%B1%95%E9%96%8B%E7%A](http://www.kagetsuenkanko.co.jp/wp-content/uploads/2019/03/2019.03.15-%E4%BA%8B%E6%A5%AD%E3%81%AE%E7%8F%BE%E7%8A%B6%E3%80%81%E4%BB%8A%E5%BE%8C%E3%81%AE%E5%B1%95%E9%96%8B%E7%A)
[D%89%E3%81%AB%E3%81%A4%E3%81%84%E3%81%A6.pdf](http://www.kagetsuenkanko.co.jp/wp-content/uploads/2019/03/2019.03.15-%E4%BA%8B%E6%A5%AD%E3%81%AE%E7%8F%BE%E7%8A%B6%E3%80%81%E4%BB%8A%E5%BE%8C%E3%81%AE%E5%B1%95%E9%96%8B%E7%A)

●パワーポイント内に動画を使用されている場合、動画を使用しているスライドのページをご記入ください。

なし

●発表時に使用する成果物（例、商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査に使用したアンケート）

なし

【企画シート作成上の注意】※「第 10 回 西日本インカレ（合同研究会）大会参加要項」も合わせてご確認のうえ、企画シートの作成を行ってください。

- ・本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、審査を行っていただく大学教員・企業の方々に事前にお渡しいたします。
- ・本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。また、翌年 3 月に公開予定の「日経ビジネス電子版」にリンクされた特設サイトに掲載されます。
- ・本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。
- ・本企画シートは、作成上の注意を含め、4 ページ以内に収めてください。事務局から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、4 ページ目までをお渡しします。
- ・大会参加申込み時点から、チーム編成の変更（チームの人数・交代など）は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、西日本インカレ事務局にご連絡ください。事務局より手続きについてご連絡をさせていただきます。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。
- ・商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日経 BP 社・日経 BP マーケティングは一切の責任を負いません。
- ・書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。
- ・発表時に使用する成果物がありましたらご記入ください。記入がない成果物は大会当日使用することができません。また記入いただいた内容について、事務局から代表者の方に確認をさせていただく場合がございます。
- ・電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

↑ここまでを 4 ページ以内に収めて、提出してください↑